

学校教育目標

志を高く

校訓：「英知」「創造」「共生」

# だいやま 台 山

由利本荘市立  
東由利中学校  
学校だより  
NO. 38  
令和8年3月10日(火)

## 第57期卒業生 感動の旅立ち



たくさんの来賓の方々、保護者、在校生や職員に見守られ、第57期生10名が立派に学び舎を巣立っていきました。7日(土)に行われた令和7年度卒業式は、厳粛でありながらも温かく、そして感動的な式となりました。これまでの様々な思い出が去来したのでしょうか、感極まって涙する卒業生がほとんどでした。卒業生と共に涙する在校生も多く、本当に感動的な思い出に残る一日となりました。

### ～ 送 辞 ～

気が付けば、凍てつく寒さも和らぎ、頬をなでる風や陽ざしのぬくもりから、春の訪れを感じる季節となりました。東由利中学校を巣立っていく3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。57期卒業生の皆さんは、全校で一番人数が少ない学年でしたが、「10名だからできない」ではなく、「この10名だからこそできた」と証明する姿は、私たち後輩にいつも勇気を与えてくださいました。

5月の運動会。チーム別での顔合わせでは、3年生の皆さんが手招きをして、笑顔で私たちを迎え入れてくださいました。特に、色別パフォーマンスでは、チームの仲間と活発に意見を出し合い、よりよいパフォーマンスにしようと、できる工夫や努力を惜しみませんでした。その姿に、どれほど励まされ、背中を押していただいたことでしょうか。本番は、サングラスをかけ、かつらや手作りの衣装を身にまとい、音楽に合わせてお茶目な一面を見せた先輩方の姿も思い出深いです。勝ち負けはつくものの、勝っても負けても、清々しい気持ちで運動会を終えられたのは、先輩方の支えがあったからこそでした。全校生徒39名で協力して「青春舞台」を創り上げた東中祭。合唱コンクールでは、10名で息の合った歌声を体育館いっぱいに響かせました。結果発表では、祈るように両手を強く握りしめて緊張していた先輩方が「小松耕輔賞3年A組」という言葉を聞いた瞬間に立ち上がり、ハイタッチをして、仲間と喜び合う姿を見て、私たちまで嬉しくなりました。また、SNSが普及した戦国時代を舞台にした「戦国SNS時代」。3年生全員の個性と表現力が光り、幕が閉じてもその感動の余韻が残り続けていました。

行事だけでなく、日々の部活動、生徒会活動、何気ない会話。その全ての場面において、私たちが目指すべき道を示してくださいました。私たち後輩が入学したとき、小学生のころと変わらない素敵な笑顔で優しく包み込んでくださった皆さん。どんな言葉よりも、その変わらない笑顔が嬉しかったです。その優しさがあったからこそ、私たちは安心して学校生活をスタートさせることができました。毎日のように響く、先輩方の笑い声。明日からはその声が聞こえない、校内のどこを探しても、先輩方の姿は見えない。そう考えるだけで寂しくてたまりません。

いよいよ4月からは、それぞれが新たな場所でスタートを切ることになります。これまで積み重ねてきた経験と仲間との絆は、これからの皆さんを支え、導いてくれるはずですが、最初にもお話ししましたが、「10名でもこれだけのことができた」と証明できたことに自信をもち、胸をはって、これからを歩いていってください。きっと、どんな難問に対しても自分なりの答えを導けることでしょう。

最後になりますが、\*\*さん、\*\*\*さん、\*さん、\*\*さん、\*\*さん、\*\*さん、\*\*さん、\*\*さん、\*\*さん、\*\*さん、9年間本当にありがとうございました。先輩方の健康とご活躍を祈念して、送辞とさせていただきます。

令和8年3月7日 在校生代表 大庭 \*\*



## ～答 辞～



3年間通い続けた校舎、仲間と見続けた東由利の風景が、春の光に照らされ、草木が萌え立ち始める季節となりました。今日は、私たち第57期卒業生のために、このような心のこもった素晴らしい卒業式を挙げていただき、本当にありがとうございます。卒業生一同、心より感謝申し上げます。

思えばこの3年間は変化の連続の日々でした。3年前の4月、不慣れな制服を身にまとい、中学校生活がスタートした日を今でも鮮明に覚えています。教科担任制になったり、通学方法が変わったりなど、小学校生活から大きく変わり戸惑う部分がたくさんありました。

中学校生活に徐々に慣れて迎えた2年生。それまでは先輩についていくだけの立場でしたが、いきなり後輩を指導する立場に変わりました。後期から、全校の先頭に立って行動することになったときに抱いた不安。前年の3年生が21名で成し遂げた伝統をたった10名で引き継ぐのは大変でした。それでも、激動の3年間を乗り越えることができたのは、学年10名をはじめとする仲間が悩みを共有し協力し合い、絆を深めてきたからです。

今年度最初の大会は、修学旅行でした。3年生全員が一番楽しみにしていた行事です。プロ野球観戦、生徒だけの班別自主研修など、このメンバーで大都市圏に行ったことは、とても貴重な経験になりました。また、旅行中に体調を崩す人が出たとき、みんなで協力して対応したことは、修学旅行のテーマ「ALL for ONE」を体現できた瞬間だと強く感じました。

3年生として初めて全校の先頭に立って運営したのは運動会。私たちが各組のリーダーとなってしごきを削り合い、声が枯れるほど仲間を応援し続け、足が動かなくなるまで全力で走り抜けました。色別パフォーマンスでは、ご来場の方々に最高の応援を披露することができたと思います。

3年間の部活動の集大成である総体とコンクール、そして応援。日々一緒に練習してきた仲間を信じて、そして自分を信じて最後まで諦めることなく力を尽くしました。仲間と協力し、また切磋琢磨して得た経験や思い出は私たちの宝物です。

「笑顔の架け橋 ～東中の青春舞台～」をテーマに掲げた東中祭。3年生として先頭に立って指揮をとる最後の行事でした。私たちは演劇「戦国SNS時代！」を披露し、10名全員が主役となって活躍しました。演劇練習では、よりよい演技を目指してお互いの改善点を指摘し合い、試行錯誤を重ねた結果、一人一人の個性が輝く、生き生きとした演劇になったと思います。また、10年ぶりに復活した合唱コンクールでは、初めて混声三部合唱に挑戦し、「365日の紙飛行機」で小松耕輔賞をいただくことができました。今でも忘れられないのは、活動終了時刻ぎりぎりまで仲間と活動したあの時間。本番前に訪れた静かな緊張。本番後に味わった何とも言えない達成感と心地よい疲れ。祭りが終わってしまった寂しさ。その全てが私たちの青春そのものでした。

しかし、この3年間、私たちだけの力で成し遂げたものはありません。いつも私たちのことを思って指導し、大切な場面では私たちに真剣に寄り添ってくださった先生方。校舎の隅々まで絶え間なく掃除したり、酷暑の中での草刈り、寒い中での雪寄せをしてくださった校務員さん。今年度で最後となる、東由利だけの美味しい給食を作ってくださった栄養士さん、調理員さんにも感謝します。

また、在校生の皆さん、私たち3年生を支えてくれてありがとうございました。これからの東由利中学校を創り上げていくのはみなさんです。これからも東由利中の歴史や伝統を大切にしながら、みなさんのよさを生かして頑張ってください。

そして、お父さん、お母さん、家族の皆さん。15年間、いつも近くにおいて私たちを励まし、支えてくれました。思いもしないすれ違いがたくさんありましたが、いつも温かく見守ってくれたおかげで今の私たちがいます。本当にありがとうございました。

最後に3年生のみんな。9年間、一緒に歩みを進めてきてくれてありがとう。面白い話をたくさん笑い合った時間、一緒に協力してたくさんを成し遂げた時間、どの時間もかけがえのない時間です。失敗したエピソードも今では笑い話になるほど、楽しい9年間でした。他の学年と比べて人数は少なかったけれど、最高に仲がよい学年で、このメンバーだからこそ学校が楽しかったです。

合唱コンクールで、みんなと何度も歌ったこの歌。

「人生は紙飛行機 願い乗せて飛んで行くよ 風の中を 力の限り ただ進むだけ」

4月から離ればなれになって、寂しくてたまらないとき、悩んで落ち込んだとき、そんなときはこの歌詞を思い出しましょう。みんながみんなのことを応援し合える関係が、これからもずっと、いつまでも続いていくと信じています。

この東由利中学校を卒業することは、私たち3年生、10名の誇りです。変わることはない友情と、支えてくださった全ての方々への感謝の気持ちを胸に、今、私たちはこの学舎を巣立ちます。自分の力を信じ、支えてくださる人が東由利にいることを忘れず、それぞれの夢に向かって「志を高く」前進することを誓い、答辞といたします。

令和8年3月7日 第57期卒業生代表 高橋 \*\*